

令和2年度

島根県公立高等学校  
入学者選抜の結果と分析

令和2年6月

島根県教育委員会

# 目 次

令和2年度島根県公立高等学校入学者選抜について・・・P 1

令和2年度学力検査の結果と分析

国 語・・・P 9～P 10

社 会・・・P 11～P 12

数 学・・・P 13～P 14

理 科・・・P 15～P 16

英 語・・・P 17～P 18

# 令和 2 年度島根県公立高等学校入学者選抜について

令和 2 年度島根県公立高等学校入学者選抜は「令和 2 年度島根県公立高等学校入学者選抜の基本方針について」及び「令和 2 年度島根県公立高等学校入学者選抜実施要綱」に基づいて、39校（全日制課程36校（分校含む）71学科 入学者定員5,210人，定時制課程 3 校 8 学科（部）入学者定員360人）で行われた。

今回は，一般選抜における第 2 志望校制度の廃止，志願変更の実施，学力検査内容の変更，全日制高校も含めた第 2 次募集の実施等，大きく制度変更をした 4 年目の入学者選抜であった。その概要は次のとおりである。

## 1 入学者選抜の基本方針について

### 令和 2 年度島根県公立高等学校入学者選抜の基本方針

島根県教育委員会

松江市教育委員会

#### 1 選抜全般について

(1) 一般選抜，推薦選抜，スポーツ特別選抜，中高一貫教育校（連携型）特別選抜を実施する。

ア 一般選抜においては，出願後 1 回に限り志願変更を認める。

イ 一般選抜における合格発表の時点で，欠員が生じたすべての学校・学科において，第 2 次募集を実施する。

ウ 推薦選抜の募集人員は，体育科を除き当該学科の入学定員の 40%程度までで各学校が定めることとする。

(2) 県外から生徒募集を行う高等学校については，別に定める。

(3) 「県立高校魅力化ビジョン」で示されたとおり，大田高校，浜田高校，益田高校の 3 校の普通科については，地域外入学制限を撤廃し，10%を超える受入れを可能とする。あわせて，県外からの入学制限の対象からも除外し，各高校の実情に応じて 4 名を越える受入れを可能とする。

なお，松江市内，出雲市内にある県立高等学校全日制課程 4 校（松江北高校，松江南高校，松江東高校，出雲高校）の普通科については，引き続き，地域外の合格者の割合を入学定員 10%（出雲高校 5%）以内に制限する。

(4) 松江市内の県立高等学校全日制課程普通科における通学区以外からの合格者の割合を入学定員の 20%以内に制限する。

(5) 通信制課程入学者選抜は原則として従来のとおり実施する。

#### 2 学力検査について

##### (1) 問題作成

ア 学力検査問題は，島根県教育委員会及び松江市教育委員会において作成する。

イ 学力検査問題の作成にあたっては，委員等の人選及び作業の過程について細心の注意を払うこととする。

##### (2) 出題方針

高等学校教育を受けるに足る資質と能力が正しく判定でき、かつ、中学校教育をゆがめることなく、その充実に資することができるよう十分留意して、次の方針により出題する。

ア 中学校学習指導要領に示されている各教科の目標・内容に即して、問題の内容と程度を定める。

イ 単に知識や技能を問うのみでなく、知っていること・できることをどう使うかという観点で思考力、判断力、表現力等を問うことのできる問題を作成する。

### (3) 学力検査の実施

ア 実施教科

中学校の国語、社会、数学、理科、英語の5教科で実施する。

イ 実施期日

令和2年3月5日（木）

公立高等学校全日制課程、定時制課程について、一斉に実施する。

ウ 学力検査場

公立高等学校を学力検査場にあてるとともに、その管理は、各高等学校に設ける学力検査実施委員会が担当する。

受検者は出願先高等学校で受検する。

ただし、特別な事情により最寄りの学力検査場で受検を希望する者については、最小限の特別措置を図ることとし、これについては別途指示する。

エ 実施時間・配点

実施時間は各教科50分とし、配点は1教科50点満点、合計250点とする。

### (4) 採点

採点場は、別に定める公立高等学校とし、採点者には採点場ごとに設ける学力検査実施委員会の委員をあてる。

### (5) 追検査

原則として実施しない。

## 2 推薦選抜，スポーツ特別選抜，中高一貫教育校（連携型）の特別選抜

入学願書の受付は、令和2年1月9日（木）から1月15日（水）12時までの間に行われ、令和2年1月27日（月）に合格内定が通知された。

### (1) 推薦入学者選抜（推薦選抜）

昭和57年度から実施している推薦入学者選抜（以下「推薦選抜」という。）は、今年度29校58学科（昨年度29校57学科）で募集し、29校57学科（昨年度29校54学科）で行った。

募集人員については平成17年度から「当該学科の入学定員の50%程度まで」としていたが、平成23年7月の島根県教育課程審議会答申「島根県立高等学校の入学者選抜方法の改善について」を受け、「体育科を除き当該学科の入学定員の40%程度までで各校が定めること」とした。その結果、表1に示す各高校・学科・募集人員で実施された。選抜にあたっては、中学校から推薦された者について調査票等を含めた書類審査及び面接等を行った。

この募集に対して本年度は758人（昨年度743人）の出願者があり709人（昨年度675人）が合格した。

推薦選抜の制度は、一般の入学者選抜に比べ、特に学力検査では評価しがたい、その学校や学科にふさわしい多面的な能力・適性等を評価した選抜を行うところにその意義がある。各高等学校は、中学校と連携しながら、この制度の活用について検討してもらいたい。

表 1 推薦選抜募集人員（%は入学定員に対する比率を示す）

推薦選抜募集人員	学 校 名 (学 科 名)
60%	大社高校（体育科）
40%	情報科学高校（全学科） 松江商業高校（全学科） 出雲工業高校（全学科） 出雲農林高校（全学科） 江津工業高校（全学科） 津和野高校（普通科） 松江市立女子高校（国際文化観光科）
	松江工業高校（全学科） 松江農林高校（全学科） 出雲商業高校（全学科） 邇摩高校（総合学科） 益田翔陽高校（全学科） 隠岐島前高校（普通科）
35%	浜田商業高校（全学科）
34%	島根中央高校（普通科）
30%	矢上高校（全学科）
25%	大東高校（普通科） 江津高校（普通科）
	平田高校（普通科） 浜田水産高校（全学科）
20%	三刀屋高校（総合学科） 隠岐水産高校（全学科） 吉賀高校（普通科）
	隠岐高校（普通科） 松江市立女子高校（普通科） 飯南高校（普通科）
13%	安来高校（普通科）
10%	松江東高校（普通科） 隠岐高校（商業科）
	大社高校（普通科）
5%	横田高校（普通科）

## （２） スポーツ推進指定校推薦入学者選抜（スポーツ特別選抜）

スポーツ推進指定校推薦入学者選抜（以下「スポーツ特別選抜」という。）は、体育系の部活動の活性化を図るとともに、優秀な選手を育成し競技力を向上させ、また県内におけるスポーツ活動を活性化して生涯スポーツの発展を図るため平成14年度から実施しているものである。平成28年度にスポーツ特別重点校が見直され、それにともなってスポーツ特別選抜実施校及び実施競技も見直しがなされた。表 2 の指定競技・実施校において募集したところ、34人（昨年度40人）が出願し、33人（昨年度40人）が合格した。

表 2 スポーツ特別選抜実施校及び指定競技

実 施 校	指 定 競 技	
	男 子	女 子
安 来 高 等 学 校	バレーボール フェンシング	バレーボール フェンシング
松 江 東 高 等 学 校	バスケットボール	ボ ー ト
松 江 工 業 高 等 学 校	ソフトテニス	

松江商業高等学校		バスケットボール
横田高等学校	ホ ッ ケ ー	ホ ッ ケ ー
三刀屋高等学校	ソ フ ト ボ ー ル	
出雲高等学校		弓 道
出雲農林高等学校	ウェイトリフティング	カ ヌ ー
大社高等学校	陸 上 競 技 剣 道	陸 上 競 技 剣 道
島根中央高等学校	カ ヌ ー	
江津高等学校	水 球	
江津工業高等学校	ボ ー ト	
隠岐島前高等学校	レ ス リ ン グ	

### (3) 中高一貫教育校（連携型）に係る入学者選抜（特別選抜）

中高一貫教育校（連携型）に係る入学者選抜（以下「特別選抜」という。）は、平成13年度に中高一貫教育を導入した飯南高校と吉賀高校で平成14年度入学者選抜から実施された。

飯南高校は頓原中学校又は赤来中学校，吉賀高校は柿木中学校，吉賀中学校又は六日市中学校に在籍する生徒を対象として，学力検査を用いない入学者選抜を実施し，飯南高校に26人（昨年度23人），吉賀高校に32人（昨年度23人）の出願があり，飯南高校26人（昨年度23人），吉賀高校20人（昨年度20人）が合格した。

## 3 一 般 選 抜

### (1) 出願及び合格発表

入学願書の受付は，令和2年1月30日（木）から令和2年2月4日（火）12時までの間に行われた。入学定員から推薦選抜等の合格内定者数を除いた一般選抜募集定員4,782人（全日制4,422人，定時制360人）に対して，4,124人（全日制3,983人，定時制141人）が出願した。

志願変更の受付は，令和2年2月12日（水）から令和2年2月18日（火）17時までの間に行われた。他の学校に志願変更した者は53人（昨年度40人），同一学校の他の学科に志願変更した者は14人（昨年度23人）であった。この結果，志願変更後の第1志望学科への出願状況は表3-1のとおりであった。

表 3 - 1 出願者の状況（志願変更後）

（ ）内は平成31年度選抜の数字

種別 課程	入学定員	推薦選抜等 合格内定者 (注1)	一般選抜 募集定員 (注2)	志願変更後		志願変更前
				一般選抜 出願者数	対募集定員 競争率(注3)	一般選抜 出願者数
全日制	5,210 (5,190)	788 (758)	4,422 (4,432)	3,982 (4,040)	0.90 (0.91)	3,983 (4,038)
定時制	360 (360)	— (—)	360 (360)	142 (126)	0.39 (0.35)	141 (127)
計	5,570 (5,550)	788 (758)	4,782 (4,792)	4,124 (4,166)	0.86 (0.87)	4,124 (4,165)

注1 推薦選抜、中高一貫教育校に係る特別選抜、スポーツ特別選抜の合格内定者の合計

注2 入学定員から推薦選抜等合格内定者数を除いたもの

注3 一般選抜出願者数を募集定員で割ったもの

合格発表は令和2年3月12日（木）各校のホームページ上で行われ（西部・隠岐 10時，東部 10時30分），推薦選抜等の合格内定者を含め，4,530人（全日制4,421人，定時制109人）が合格した。

なお，第2次募集での合格者を含めると，最終的な合格者数は，表3-2に示すとおり4,578人（全日制4,456人，定時制122人）であった。

表3-2 合格者の状況

（ ）内は平成31年度選抜の数字

種別 課程	合格者数			合格者 総数	県内	県外 海外	合格者のうち地域外 通学区外対象人数	
	推薦選抜等	一般選抜	第2次募集				地域外	通学区外
	全日制	788 (758)	3,633 (3,734)	35 (16)	4,456 (4,508)	4,267 (4,331)	189 (177)	74 (89)
定時制	— —	109 (97)	13 (6)	122 (103)	121 (103)	1 (0)	— —	— —
計	788 (758)	3,742 (3,831)	48 (22)	4,578 (4,611)	4,388 (4,434)	190 (177)	74 (89)	100 (97)

## （2）選抜方法

「高等学校長は，入学志願者については，出身中学校等の校長から提出された個人調査報告書，学力検査成績，自己申告書等に基づいて，各高等学校，学科等の特色に配慮しつつ，その教育を受けるに足る能力・適性等を判定して選抜する」（入学者選抜実施要綱より）という入学者選抜の基本方針に基づいて選抜を行った。

個人調査報告書と学力検査の比率については，80:20，70:30，60:40，50:50及び40:60の中から各高校が学科ごとに選択決定することとしている。今年度は39校（分校及び併設定時制を含む）のうち，70:30が1校（昨年度1校），60:40が16校（昨年度16校），50:50が14校（昨年度15校），40:60が9校（昨年度8校）であった（学科により比率が異なる学校あり）。

この比率に基づいて総点を算出するが，60:40の場合，個人調査報告書の「学習の記録」を51点，「特別活動の記録」を9点の計60点に，さらに学力検査（1教科50点満点，合計250点）の成績を40点に換算し，合計100点満点となるよう点数化する。

平成15年度から，学力検査後に面接及び実技検査を実施する場合には，各学校が10点を限度として総点に加え選抜の資料にすることができることとした。

## （3）傾斜配点

「学校・学科の特色に応じた学力をみるために，学力検査の特定の教科の得点を重くみる傾斜配点」（入学者選抜実施要綱より）は昭和62年度から導入しているが，今年度実施した学校はなかった。

## （4）受検状況

令和2年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査は，令和2年3月5日（木）県内37会場において，国語，数学，社会，英語，理科の順に各教科50分，1教科50点満点，合計250点で行った。

今年度の一般選抜の受検者数は3,905人，辞退者数等は出願者の5.3%に当たる219人であった。辞退等の理由は表4に示したとおりであるが，本年度も高専合格や私立高校合格のため受検を辞退した者が大半を占めている。

表4 欠席者数と欠席理由

( )内は平成31年度選抜の数字

種別 課程	欠席者数	欠 席 理 由					
		病 気	松 江 高 専 者 合 格 者	県 内 私 立 者 合 格 者	県 外 高 校 等 合 格 者	就 職	そ の 他
全日制	196 (209)	2 (4)	105 (104)	51 (65)	36 (33)	0 (0)	2 (3)
定時制	23 (23)	0 (1)	0 (0)	15 (13)	1 (2)	0 (0)	7 (7)
計	219 (232)	2 (5)	105 (104)	66 (78)	37 (35)	0 (0)	9 (10)

※新型コロナウイルス感染症による欠席者はなし

### (5) 第2次募集

令和2年3月12日(木)の合格発表の時点で、入学定員に欠員がある全日制課程及び定時制課程の各学校・学科で第2次募集を実施した。令和2年3月19日(木)に、個人調査報告書、一般選抜学力検査の結果、作文、面接結果等の資料を基にして総合的に選抜を行い、57人(昨年度33人)が受検し48人(昨年度22人)が合格した。

## 4 学 力 検 査

### (1) 出題方針

学力検査問題の作成にあたっては、中学校学習指導要領に示されている各教科の目標に沿って、平素の学習で積み上げられた受検者の学力が十分に判定できるように、問題内容を精選して出題した。出題形式は、単なる知識の検査にならないように、思考力、判断力、表現力等をみるために記述式、論述式の問題を出題した。また、身近なものを題材とした問題作成に努めた。放送による聞き取りの問題については、英語において実施した。

県内中学校・高校の各教科を担当する教員を対象とした学力検査に対する意識調査(学力検査の難易度及び分量について)の結果は表5のとおりであった。

### (2) 得点状況

学力検査の得点状況は、表6-1、6-2に示すとおりであった。5教科総合の平均点は120.8点で昨年度より0.4点高かった。教科別の平均点は、国語が29.1点(昨年度より-2.6点)、社会が25.3点(昨年度より-0.7点)、数学が24.1点(昨年度より+5.4点)、理科が22.6点(昨年度より+1.3点)、英語が19.9点(昨年度より-2.9点)であった。表6-3は得点の分布状況をグラフに示したものである。

9ページ以降では、各高校で全受検者の約1割を抽出して行った調査に基づき、教科別に分析結果を示す。

表5 各教科を担当する教員の学力検査に対する意識調査結果

(中学校 100校 高校 39校)

(単位：%)

教科	校種	内容の程度			問題の分量		
		もっと下げる	ほぼ適当	もっと上げる	多い	ほぼ適当	少ない
国語	中学校	1.0	93.0	6.0	2.0	98.0	0.0
	高校	0.0	100.0	0.0	7.7	92.3	0.0
社会	中学校	7.0	86.0	7.0	5.0	94.0	1.0
	高校	15.4	82.0	2.6	15.4	84.6	0.0
数学	中学校	2.0	79.0	19.0	14.1	85.9	0.0
	高校	0.0	97.4	2.6	20.5	79.5	0.0
理科	中学校	6.0	89.0	5.0	2.0	96.0	2.0
	高校	10.3	89.7	0.0	10.2	87.2	2.6
英語	中学校	33.0	67.0	0.0	22.0	78.0	0.0
	高校	30.8	69.2	0.0	20.5	79.5	0.0

表6-1 平均点・標準偏差・最高点・最低点

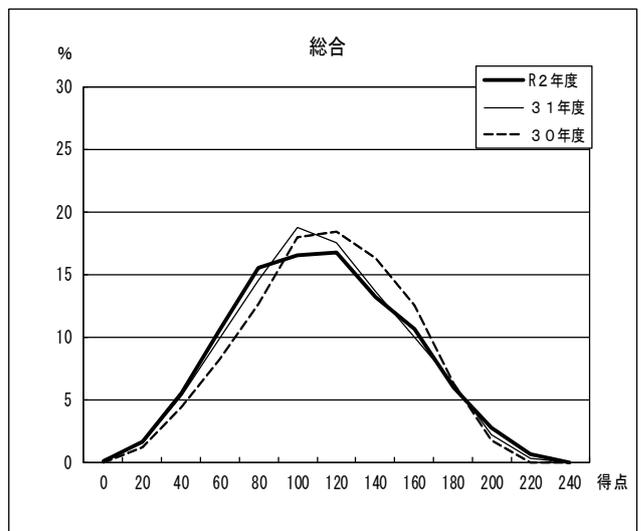
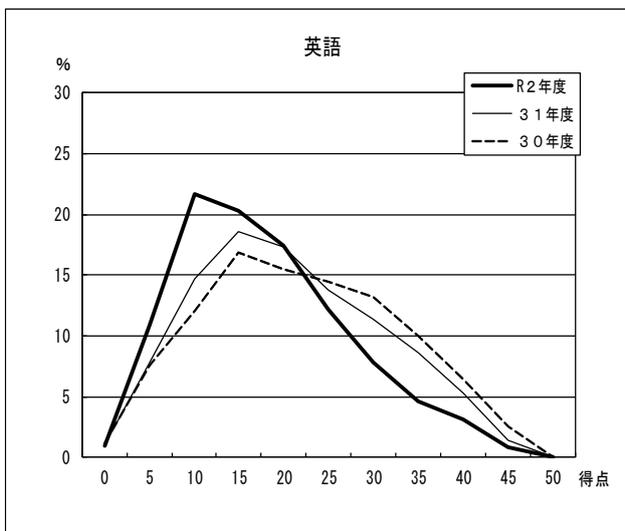
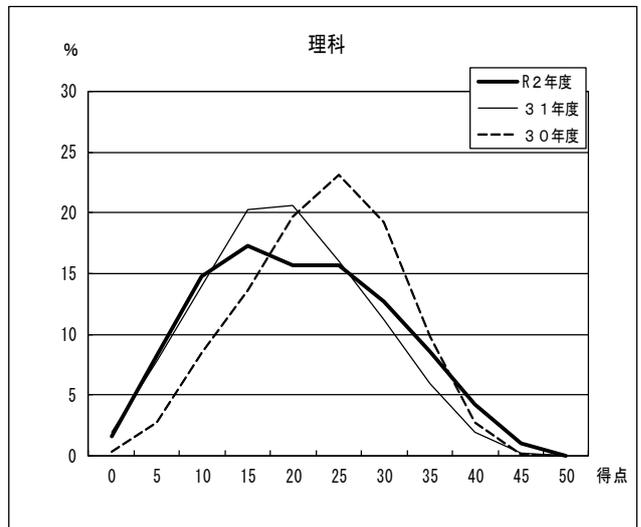
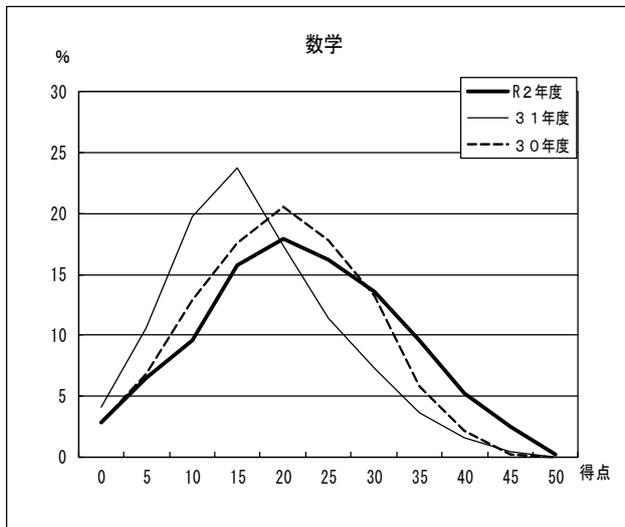
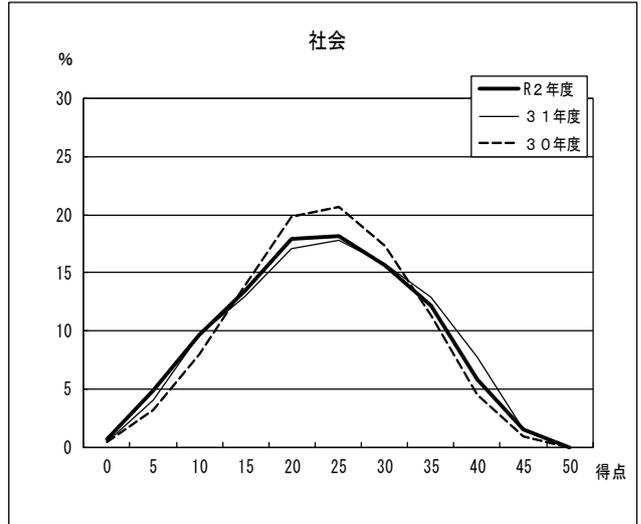
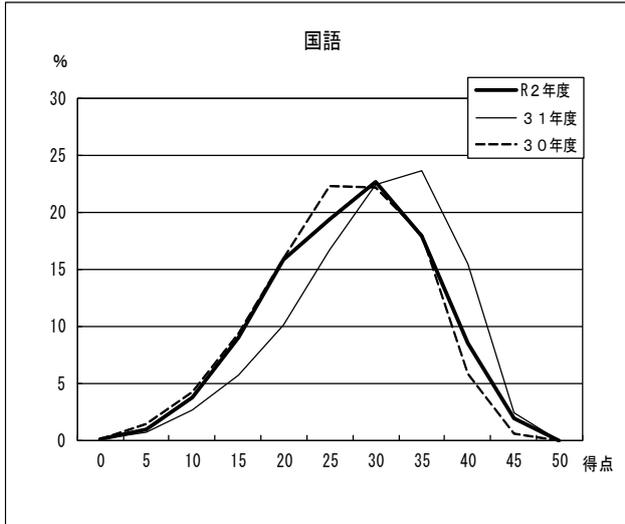
項目	平均点	標準偏差	最高点	最低点
教科	令和2年度	偏差		
国語	29.1	8.2	50	2
社会	25.3	9.7	48	0
数学	24.1	10.4	50	0
理科	22.6	10.0	50	0
英語	19.9	9.2	49	2
総得点	120.8	42.7	234	6

項目	平均点	最高点	最低点
教科	平成31年度		
国語	31.7	49	2
社会	26.0	49	0
数学	18.7	48	0
理科	21.3	47	0
英語	22.8	49	1
総得点	120.4	232	14

表6-2 総得点分布

得点	令和2年度	平成31年度
220点以上	26	10
200～219	108	86
180～199	235	248
160～179	417	392
140～159	517	537
120～139	656	690
100～119	645	734
80～99	604	569
60～79	411	390
60点未満	286	278
計	3,905	3,934

表 6 - 3 得点の相対度数分布



**文章を俯瞰的にとらえる力、異なる立場を想定して意見を適切に表現する力の育成を****1 出題のねらい**

出題にあたっては、公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき、思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「国語」の出題にあたっては、中学校学習指導要領「国語」に示されている、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと及び伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の3領域1事項に沿って、国語を正確に理解し、適切に表現するための基礎的・基本的な力をみることをねらいとした。

**【第一問題】**

漢字の読み・書きの問題、書写に関する問題、文法の問題を通して、それぞれについての基礎的な力をみる。

**【第二問題】**

説明的な文章を素材とする問題である。論理の構成や展開を理解し、筆者の主張やその根拠を正確にとらえる力をみるとともに、与えられた条件の中で適切に説明する力をみる。また、関連のある文章を読み比べて共通する内容や表現の特徴をとらえる力をみる。

**【第三問題】**

文学的な文章を素材とする問題である。登場人物の言動を追いながら、心情を的確にとらえる力をみるとともに、文章中の表現を根拠にして適切に説明する力や、心情を表す語彙の基礎的な知識をみる。

**【第四問題】**

古典（漢文）を素材とする問題である。訓点などの漢文に関する基礎的な知識に加えて、話の内容を的確にとらえ、論理的に説明する力や、既習の知識と関連付ける力をみる。

**【第五問題】**

生徒がテーマに基づいてインタビューを行う場面と、インタビューでの回答を踏まえて意見文を書く場面とを想定した問題である。話すこと・聞くことについての基礎的な知識をみるとともに、身近な暮らしの問題について、異なる立場を想定して考えをまとめ、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書く力をみる。

**2 総括**

平均点は29.1点で、昨年度の31.7点より下降した。難易度を上げることを望む声は中学校から1割弱あったが、高校では10割、中学校では9割以上の学校がほぼ適当と答え、適当な問題であったと思われる。

今年度も第一問題に漢字などの基礎的・基本的な知識を問う問題を集め、大問題の構成も昨年度と同じであった。漢字の読み・書写・漢文・敬語の基礎的・基本的な力は身に付いていた。読む力を問う問題については、選択式では、選択肢を手がかりとして文章を正確に読むことができ、正答率が高かったが、記述式では、文章全体の流れをとらえないまま部分のみに着目してしまい、文章から答えの要素を探し出せずに減点となった解答が多かった。作文は、完成させようとする意欲はみられたが、条件を満たして書くことができずに減点となった解答が目立った。基礎的・基本的な知識の確実な定着とともに、文章全体の流れを俯瞰的にとらえた上で部分を正確に読む力、条件に合わせて考えをまとめ、意見を適切に書く力の育成を期待したい。

### 3 特徴的な問題の結果分析

#### 【第五問題】 問三

**正解答 (例)**

〔商店街 (A寺通り商店街) での歩き食べ問題を改善するために、〕私は、大きなゴミ箱を通り、のあちこちに置くことを提案します。インタビューでは、近所の住民がゴミのポイ捨てに困っていると答えていました。しかし商店街の店主の話から、歩き食べのおかげでお客が増え、歩き食べは商店街のために役立っている面があるとわかりました。私は街の中で歩き食べをしても、ゴミをすぐに片付けることで、きれいな街と歩き食べを両立できると思います。

**歩き食べに【賛成】**

歩き食べは、手軽においしいものを食べながら、あちこちのお店やお土産を見てまわることができるので、とても楽しいです。今回の旅行の目的です。

観光客

歩き食べの観光客は前をよく見ている人が多く、から、よくぶつかったり、食べ物がこちの制服に付いたりするんです。

地元の高校生

ここで歩き食べをした後、ゴミをポイ捨てする観光客が多くてね。街が汚れて、住んでいる者は困っているよ。

近所の住民

一時期お客が減っていたの商店街も、旅行雑誌に歩き食べが取り上げられて、大きく盛り返したから、喜んでいるよ。

商店街の店主

**【第五問題】**  
修学旅行で礼子さんたちのグループが訪れた「A寺通り商店街」は、通りの両側に食べ物や商品を売る商店が数多く並び、いつも多くの人でにぎわっている有名な観光地です。しかし最近では、観光客による「歩き食べ(ものを食べながら歩くこと)」が迷惑行為として商店街の周辺では問題になっています。礼子さんたちはここでインタビューを行い、それを元に意見文を書くことにしました。次のインタビューでの主な回答と、インタビュー後の礼子さんの感想を読んで、下の問一～問三に答えなさい。

〔A寺通り商店街周辺でのインタビューで得られた主な回答〕

「インタビュー後の礼子さんの感想」

礼子さん

商店街での歩き食べに困っている人が多いということは予想以上で、このままではいけないと感じました。改善方法を何か提案したいと思います。ただ、歩き食べに賛成人もいることもわかりました。歩き食べに賛成人のことを考えた改善方法にすることが必要があると思います。

**問三** A寺通り商店街での歩き食べについて、あなたが礼子さんならどのような意見文を書きますか。次の①～④の条件に従い文章を完成させなさい。

① 礼子さんの立場に立って、歩き食べに関する問題を改善するための具体的な提案を一つ書くこと。

② 上に示したインタビュー回答の【反対】と【賛成】からそれぞれ一人の回答を選び、その内容を提案と結びつけて文章中で取り上げること。取り上げる際に誰の回答か示すこと。

③ 文章は、次の書き出しに続ける形で、具体的な提案の部分から書き始めること。

〔書き出し〕

商店街 (A寺通り商店街) での歩き食べ問題を改善するために、

( 百五十文字以上、百八十文字以内 )

④ 百五十文字以上、百八十文字以内でまとめること。句読点や記号も一字として数える。解答欄の「改善するために」に続くマス目から書き始め、段落を設けなさい。

※読み返して文章の一部を直したいときは、二本線で消したり、余白に書き加えたりしてもよい。

昨年度と同じように、話すこと・聞くこと、書くことの2領域にわたって思考力・判断力・表現力等を問う問題である。問三の出題のねらいは、「身近な暮らしの問題について、異なる立場を想定して考えをまとめ、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書く力をみる」であった。中学校学習指導要領に「立場や考えの違いを認めつつ、課題の解決に向けて自他の考えを整理し、合意形成を目指し」、「社会生活における課題を解決」しようとする力の育成があげられ、今回は、意見文を書くことでその力をみた。出題意図を明確にするために、問題を改善するための具体的な提案を書くことと、賛否双方の意見を提案と結び付けることという二つの条件を明示した。

昨年度よりも正答率(6.1%)は低く(昨年度7.3%)、無答率(4.7%)は高かった(昨年度2.8%)。条件を満たすことができずに減点となった解答が多くみられた。礼子さんの立場に立たずに自分の意見を書いた答案や、賛否双方の立場を踏まえずに一方だけに立った答案が目立ち、複数の立場や考えを尊重しつつ意見を構築する力に課題がみられた。新学習指導要領でも、「他者と協働して課題を解決していく」ことが重視され、「互いの発言を生かしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりする」力の育成が求められている。グローバル化をはじめ多様化の進む社会では、「多様な考えや異なる立場を想定しながら伝え合う力」が不可欠であり、言語活動を通して、他者の意見を尊重しつつ主体的に課題の解決を考え、伝え合う学習の充実が期待される。

## 社会科

### 基礎的・基本的知識の確実な定着と思考力・判断力・表現力等の一層の育成を

#### 1 出題のねらい

出題にあたっては、公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき、思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「社会」の出題にあたっては、中学校学習指導要領「社会」に示されている、地理的分野、歴史的分野及び公民的分野について、地図、統計及び史料など各種の資料から必要な情報を読み取り、多面的・多角的に考察して公正に判断し、適切に表現する力や、公民としての基礎的教養が身に付いているかをみることをねらいとした。また、島根県で実施している「ふるさと教育」を踏まえ、島根県に関する事項についても出題した。

##### 【第1問題】

地理的分野、歴史的分野、公民的分野における基礎的・基本的事項の定着をみるとともに、3分野で学習した内容を関連づけながら社会的事象について思考・判断し、適切に表現する力をみる。

##### 【第2問題】

歴史的分野における基礎的・基本的事項の定着をみるとともに、我が国の歴史の大きな流れや各時代の特色、世界とのつながりについての理解と、諸資料をもとにして様々な歴史的事象を多面的・多角的に考察して公正に判断し、適切に表現する力をみる。

##### 【第3問題】

地理的分野における基礎的・基本的事項の定着をみるとともに、地図や各種統計資料を的確に読み取る技能と、読み取った内容を地理的な見方や考え方に基づいて多面的・多角的に考察して公正に判断し、適切に表現する力をみる。

##### 【第4問題】

公民的分野における基礎的・基本的事項の定着をみるとともに、民主主義や現代の社会生活についての理解と、諸資料をもとに現代の社会的事象を多面的・多角的に考察して公正に判断し、適切に表現する力をみる。

#### 2 総括

平均点は25.3点で、昨年度と比べて0.7点下降した。地理的分野と公民的分野の正答率はほぼ同じであったが、歴史的分野の正答率が下がったこと、正答率30%未満の問題数が増加したことなどが要因と考えられる。問題の分量について、中学校・高校ともに「ほぼ適当」という意見の割合が上昇したが、問題の程度については、中学校からは「もっと上げる」、高校からは「もっと下げる」という意見が多くなった。これらの結果から、今回の問題で問われた基本的な知識や思考力・判断力・表現力等が十分に育成されていなかったことがうかがえ、中学校の教員が解けると感じた問題であっても採点した高校の教員からは十分でない判断されたと考えられる。

昨年度までと同じく、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の学習内容を関連付けて思考力・判断力・表現力等を問う問題や、複数の資料を読み取り記号で答えたり、決められた字数内で表現したりする問題を多く出題した。問題文から問われていることを理解する力や、既習の知識とつなげて資料を考察し、字数制限の下で表現する力が必要とされたが、問題文や資料の読解や文章表現が不得意な受検生にとっては難しさを感じる問題も多かったことがうかがえた。

### 3 特徴的な問題の結果分析

#### 【第2問題】問2の2

2 下線部（b）に関連して、写真④は日清戦争後の1901年に操業を開始した施設である。写真④の施設でつくられたものは何か。グラフ①、グラフ②を参考にして、漢字で答えなさい。

グラフ① 日清戦争の賠償金の使いみち

（「岩波講座 日本歴史」などより作成）

グラフ② 日本の石炭の産出量と輸出量の推移

（「近現代日本経済史要覧」より作成）

写真④

正解答(例) 鉄鋼

日清戦争後の1901年に操業を開始した「八幡製鉄所」について、日清戦争の賠償金の使いみちや日本の石炭の産出量と輸出量のグラフから考察し、製鉄所では何がつくられていたのかを漢字で表現する力を問う意図で出題した。写真の施設がわからなくても、2つのグラフから読み取った情報を整理し、これまで学んだ知識をもとに思考・判断することで正答を導くことが可能となる。正答率は24.2%であった。

#### 【第4問題】問2の2

2 景気の状態に応じて、日本銀行が売買する国債の量や失業率などは変化する。景気変動（景気循環）にともなう「日本銀行が国債を売る量」と「失業率」の動きをあらわした一般的なモデル図として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア

イ

ウ

エ

正解答 エ

景気の状態によって変化する「日本銀行が国債を売る量」と「失業率」について、景気変動にともないどのように動くのかを考察し、モデル図の組み合わせから選択する問題であり、日本銀行が行う金融政策や失業率がどのような意味をもつのかを思考・判断する力を問う意図で出題した。その上で、現代社会での出来事と既習の内容とを結びつけ、景気に応じて様々な政策がとられることを理解して、「効率と公正」などの現代社会をとらえる見方や考え方に気付くことも期待した。正答率は46.2%であった。

## 数学科

### 基礎・基本の定着と、情報を読み取り、数学的に処理・考察する力の育成を

#### 1 出題のねらい

出題にあたっては、公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき、思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「数学」の出題にあたっては、中学校学習指導要領「数学」に示されている、数と式、図形、関数、資料の活用に関する基礎的・基本的な事項についての知識・技能の定着をみるとともに、目的に応じて課題を解決することを通して、数学的な見方や考え方をみることをねらいとした。

##### 【第1問題】

数と式、図形、関数、資料の活用の各領域におけるさまざまな内容についての基礎的な知識の理解や技能の定着をみる。

##### 【第2問題】

身近で具体的な事象の起こりやすさを判断する力や、2つのさいころを投げたときの具体的な事柄が起こる確率を求める力をみる。

また、関数  $y=ax^2$  について、変化の様子をつかむ力や、グラフの対称性や変化の割合などの基本的な事項の理解や技能の定着をみる。

##### 【第3問題】

身近な事柄を題材にして、情報を的確にとらえ、連立方程式を利用して、問題を解決する力をみる。また、具体的な事柄について、文字を用いて一般化し、説明する力をみる。

##### 【第4問題】

平面図形の性質について、作図や三平方の定理、相似比など基本的な事項についての知識や技能の定着をみる。また、相似であることの証明などを通して、様々な図形の見方・考え方や論理的に考察する力をみる。

##### 【第5問題】

時間によって変化する身近な事柄について、グラフから変化の様子を読み取り、直線の式などを求める技能の定着をみるとともに、数学的に表現し、考察する力をみる。また、一次関数のグラフを利用して課題を解決する力をみる。

#### 2 総括

平均点は24.1点で、昨年度よりも5.4点上昇した。得点分布については、昨年度に比べ20点未満の層が減少し、20点以上の層が増加した。内容の程度については「ほぼ適当」と回答した中学校が79.0%（昨年度62.4%）、高校が97.4%（昨年度64.1%）であり、問題の分量については「ほぼ適当」と回答した中学校が85.9%（昨年度54.5%）、高校79.5%（昨年度69.2%）であり、共に昨年度を上回った。

基本的な知識・理解を問う問題に関しては正答率が高く、学習の成果がうかがえる。一方、問題を解く上で読解力を必要とする問題では、問われていることを的確にとらえることができていないと思われる解答がみられた。図形に関する問題では他の分野に比べて正答率が低く、身近な事柄について方程式や関数を利用して考察・処理する問題では無答率が高いものがあった。文章や図形、グラフを正確に読み取り、その中から必要な情報を整理し処理する力や考察する力、身に付けた知識・技能を課題の解決に活用する力の育成が望まれる。

### 3 特徴的な問題の結果分析

#### 【第4問題】問2の3

問2 図2のように、 $\triangle ABC$ と、中心をOとして3点A, B, Cを通る円Oがある。  
 $\triangle ABC$ において、 $AB = AC = 5\text{ cm}$ ,  $BC = 8\text{ cm}$ とする。直線AOと円Oの交点で点Aでない方の点をDとし、ADとBCの交点をEとすると、点Eは辺BCの中点になった。次の1～4に答えなさい。

3 円Oの半径を求めなさい。

正解答(例)  $\frac{25}{6}$

この問題は、いくつかの条件が与えられた図に対して様々な見方・考え方をし、既習の知識・技能等を活用して課題を解決する力を問う意図で出題した。正答率は9.6%であった。相似な図形の性質を利用する方法や、円の直径を辺にもつ円に内接する直角三角形に三平方の定理を利用する方法など複数の解法で解くことができる。

一つの問題を多面的にとらえ、違う解法を考えることにより、生徒自身の考えを広げる学習を一層充実させることが重要である。

#### 【第5問題】問3の3

【第5問題】 さやかさんは、9時00分に自転車で家を出発し、家からの道のりが20kmの道の駅に向かってサイクリングをした。家を出発して道の駅に到着するまでの途中で、家からの道のりが12kmの公園で休憩をとり、道の駅に到着後は2時間滞在した。

さやかさんが家を出発してからの時間を  $x$  分、家からの道のりを  $y$  km とする。図1は、さやかさんが家を出発してから道の駅での滞在時間が終わるまでの  $x$  と  $y$  の関係をグラフで表したものである。下の問1～問4に答えなさい。ただし、自転車の速さは一定とする。

問3 さやかさんの兄のこうたさんは、9時50分にバイクで家を出発し、さやかさんと同じ道を通って公園に向かった。公園に向かう途中の10時00分には家からの道のりが5kmの場所を通過し、その後、公園でさやかさんに合流した。

図2は、図1に、9時50分から10時00分までのこうたさんの進んだようすを太線のグラフで書き加えたものである。下の1～3に答えなさい。ただし、バイクの速さは一定とし、こうたさんは途中で休憩しないものとする。

3 こうたさんが、公園でさやかさんに合流したのは何時何分か、求めなさい。

正解答(例) 10時14分

この問題は、時間によって変化する身近な事柄について、関数の概念を利用して数学的に考察する力を問う意図で出題した。正答率は18.8%であった。正確な値を導き出すためには、こうしたさんの進んだようすを示すグラフを表す式を求め(問3の2)、それを利用する必要があるが、グラフから得られるおおよその値を答えたと思われる解答が少なからずあった。

関数に限らず、数学は、実社会において活用されていることも多く、学んだことがどのような場面で活用できるのかを機会をとらえて指導し、数学の有用性を実感し考えを深める学習の充実が重要である。

思考力・判断力・表現力等を問う問題では、暗記した知識をそのまま再生するだけでは対応できず、問題文から必要な情報を読み取り、問われていることに対して既習の知識・技能等を活用する力が必要とされる。単なる計算技能を高めることだけに重点を置くのではなく、どのように活用し説明するのか、その必要性や有用性について、実感をともなって理解させることも重要である。

## 理科

### 基礎的・基本的知識を活用させる，科学的思考力と論理的説明力の育成を

#### 1 出題のねらい

出題にあたっては，公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき，思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「理科」の出題にあたっては，中学校学習指導要領「理科」に示されている，第1分野，第2分野の基礎的・基本的な事項について，知識・理解及び技能の定着をみるとともに，自然の事物・現象について，興味・関心をもって探究し，資料や観察・実験の結果を科学的に分析し，読み取る力や思考する力，表現する力をみることをねらいとした。

##### 【第1問題】

科学的に探究するために必要な各領域の基本的な知識・理解をみるとともに，自然の事物・現象に対して，各領域を横断した知識・理解をみる。

##### 【第2問題】

第2分野（生物領域）における，動物の体のつくりと働きに関する内容について，実験や資料整理を通して基本的な知識・理解を問うとともに，得られる結果をもとにして科学的に思考する力や表現する力をみる。

##### 【第3問題】

第1分野（化学領域）における，酸・アルカリとイオン，化学変化に関する内容について，実験を通して基本的な知識・理解を問うとともに，実験結果をもとにして科学的に思考する力や表現する力をみる。

##### 【第4問題】

第1分野（物理領域）における，静電気と電流，電流・電圧と抵抗に関する内容について，観察・実験を通して基本的な知識・理解を問うとともに，実験結果をもとにして科学的に思考する力や表現する力をみる。

##### 【第5問題】

第2分野（地学領域）における，地震の伝わり方と地球内部の働きに関する内容について，基本的な知識・理解を問うとともに，資料を分析して科学的に思考する力や表現する力をみる。

#### 2 総括

平均点は22.6点で，昨年度の21.3点とほぼ同程度であった。内容の程度について「ほぼ適当」と回答した中学校は89.0%（昨年度92.1%）に対して高校は89.7%（昨年度79.5%），「もっと下げる」と回答した中学校は6.0%（昨年度1.0%）に対して高校は10.3%（昨年度17.9%）だった。また，問題の分量について「ほぼ適当」と回答した中学校は96.0%（昨年度96.0%）に対して高校は87.2%（昨年度97.4%），「多い」と回答した中学校は2.0%（昨年度2.0%）に対して高校は10.2%（昨年度0.0%）だった。

全般的に基礎的・基本的な知識を問う問題の正答率は高かった。一方，論述や作図など，思考力・判断力・表現力等を必要とする問題の正答率は低かった。また，無答率は昨年度と比べて高かった。自然の事物・現象について主体的に探究し，基本的なことを正確に理解するとともに，文章やデータなどを読み取る力や，観察・実験の結果・考察を文章やグラフなどで正確に表現する力，実生活や他教科で身に付けた知識・技能を活用する力の育成を期待する。

### 3 特徴的な問題の結果分析

【第3問題】問2の3

問2 うすい塩化バリウム水溶液とうすい硫酸を反応させると、白い沈殿ができる。この反応について、反応する水溶液の体積と、沈殿した物質の質量との関係調べるために、実験2を行った。これについて、下の1～3に答えなさい。

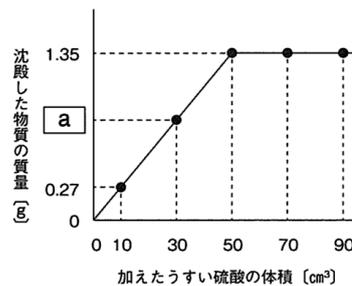
#### 実験2

操作1 5つのビーカーA～Eを用意し、ある濃度のうすい塩化バリウム水溶液をそれぞれ50cm<sup>3</sup>ずつ入れた。次に、ある濃度のうすい硫酸を表2のように加えて反応させ、沈殿した物質をろ過して取り出し、よく乾燥させてから質量を測定したところ、下の結果を得た。図2は結果をグラフに表したものである。

表2

ビーカー	A	B	C	D	E
うすい塩化バリウム水溶液の体積 [cm <sup>3</sup> ]	50	50	50	50	50
加えたうすい硫酸の体積 [cm <sup>3</sup> ]	10	30	50	70	90

図2



#### 結果

ビーカー	A	B	C	D	E
沈殿した物質の質量 [g]	0.27	a	1.35	1.35	1.35

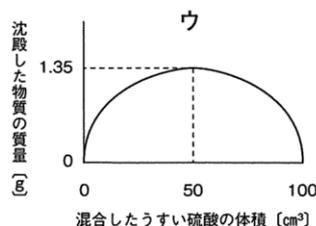
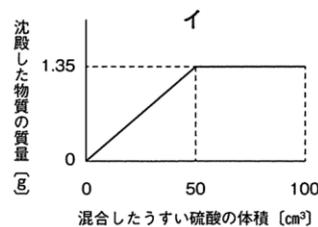
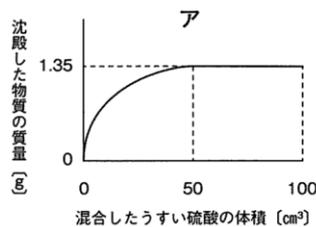
操作2 新たに5つのビーカーF～Jを用意し、

操作1で用いたうすい塩化バリウム水溶液とうすい硫酸を、表3のようにそれぞれの体積の合計が100cm<sup>3</sup>になるように混合して反応させた。そして操作1と同様にして

表3

ビーカー	F	G	H	I	J
うすい塩化バリウム水溶液の体積 [cm <sup>3</sup> ]	90	70	50	30	10
うすい硫酸の体積 [cm <sup>3</sup> ]	10	30	50	70	90

3 操作2について、「混合したうすい硫酸の体積」と「沈殿した物質の質量」の関係を表すとどのようになると考えられるか、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。



正解答 エ

この問題は、実験の手順と結果を理解し、それを類似する他の問題に応用することのできる力を問う意図で出題した。四つの選択肢から最も適当なものを一つ選ぶ選択問題ではあったが、正答率は18.1%で、誤答のイを選択した割合がとて高かった。このような実験・観察の結果を処理し考察する力を高めるためには、普段から実験の目的をきちんと理解し、実験・観察の結果をもとにまずは自分で考えて作図をし、その上で意見交換をするなど、主体的・対話的な学習活動が有効である。

## 自発的に使える語彙の定着と複数の技能を統合した言語活動の充実を

### 1 出題のねらい

出題にあたっては、公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき、思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「英語」の出題にあたっては、中学校学習指導要領「外国語」に示されている、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーションを図るために必要な基礎的・基本的知識の理解や運用能力等をみることをねらいとした。また、複数の技能を統合させながら、習得した知識を活用して表現する力をみる問題を出題した。

#### 【第1問題】

自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、使用場面を意識しながら、具体的な内容や必要な情報を聞き取る力をみる。また、聞くことと書くことの技能を統合させながら活用する力をみる。

#### 【第2問題】

資料から必要な情報を読み取る力をみる。また、読み取った情報をもとに計算を行って答えを導き出すといった教科横断型の問題も取り入れた。

#### 【第3問題】

会話の流れを読み取って、前後の内容から適する語句を判断したり英文の意味を推測したりする力をみるとともに、英文全体で書き手が何を言おうとしているのかを理解する力をみる。

#### 【第4問題】

まとまりのある英文を読んで、概要や要点を正しく読み取る力をみる。また、読むことと書くことの技能を統合し、読んだ内容を踏まえて、求められていることを英語で表現する力をみる。

#### 【第5問題】

場面や状況に応じて、ふさわしい語句や表現を使って英文を書く力、適切な語順の英文を構成する力をみる。また、与えられたテーマに関して、他者の意見を読んで自分の考えを構成し、理由を明確にしたうえで、文と文のつながりを意識して流れが一貫した英文を書く力をみる。

### 2 総括

平均点は19.9点で、昨年度よりさらに2.9点下降し、かなり低いものとなった。得点分布状況を見ると、標準偏差が9.2と小さくなり、平均点よりも低いところに受検生が集中した。得点上位層の受検生が減ったのは、リスニングで一度しか音声を流さない部分を導入したことの影響とも考えられるが、思考力・判断力・表現力等を問う問題にうまく対応できていないことが主な原因だと考えられる。

受検生の学力を詳しくみると、解答と直結する表現を聞き取ったり情報を読み取ったりする問題では正答率が高く、英語の基礎的な知識・技能の定着は進んでいると思われる。一方、「聞くこと」においては、複数の情報を整理して解答を導く力に、「読むこと」においては、まとまりのある英文の内容を深く理解する力に課題がみられた。単に英文を読むだけではなく、イラストや前後の内容などから情報を結び付けて解答する問題もあったため、一部の受検生にとっては時間内に的確に解答することが難しかったと思われる。また「書くこと」においては、条件に合わない解答が多く、無答率も高かった。場面や状況に応じた英文が思い浮かばず、特に自分の考えを表現するための基本的な語彙や文法事項が定着していない実態がうかがえた。

授業での様々な言語活動を通して、自発的に使える語彙や文法事項を定着させることはもとより、4技能の中から必要なものを統合して活用する力の育成が強く求められる。

### 3 特徴的な問題の結果分析

#### 【第1問題】 問3

音声メッセージを聞き、①②でとったメモをもとに、③で自分の考えを英語で完成する問題である。③の無答率が、43.4%とかなり高く、受検生自らが使える語彙の不足と、聞くことから書くことへ、複数の技能を統合する力の弱さが現れていた。

問3 あなたは日本を訪れているジェーンさんから送られてきた音声メッセージを聞いています。その内容に合うように、次の〈メモ〉を完成させなさい。また、メッセージの中にあるジェーンさんの質問に対して、あなたの答えを英語で書きなさい。ただし、①、②はそれぞれ英語1語で、③は与えられた書き出しに続くように答えなさい。放送は2回くり返します。

〈メモ〉

- ・ Her wonderful experience last \_\_\_\_\_ ① \_\_\_\_\_
- ・ Learned many things about \_\_\_\_\_ ② \_\_\_\_\_ traditions

〈ジェーンさんの質問に対するあなたの答え〉

Why don't you \_\_\_\_\_ ③ \_\_\_\_\_?

正解答 ① Saturday  
② Japanese

正解答(例) ③ go to temples / read books about Japan / etc.

#### 【第5問題】 問4

「コンビニエンスストアの深夜営業」に関する二人の生徒の意見を読み、自分の意見を英語で表現する問題である。昨年度

までと同じ出題形式であり、話題が「コンビニエンスストア」という身近な設定であったため、無答率は22.1%と幾分低かったが、正答した受検生と部分的な誤りをした受検生の割合の合計は36.6%にとどまった。論理の展開に一貫性がないなどの理由から誤りとなった受検生の割合は41.3%であった。

二人の生徒がそれぞれ自分の意見を述べているため、それとは異なる理由を時間内に発想しなければならず、普段の授業で養われている思考力・判断力・表現力等を十分に活用しなければならぬ。表現したり伝え合ったりする対話的な言語活動を通して、総合的なコミュニケーション能力を高めていくことが、今後さらに求められる。

問4 英語の授業で行っている話し合いの中で、フミ (Fumi)さんとユキノブ (Yukinobu)さんが自分の意見を述べています。最後の先生の質問に対して、あなた自身の意見を英語で書きなさい。ただし、下の〈条件〉①～④のすべてを満たすこと。  
(\*印のついている単語には本文のあとに〈注〉があります。 . , ? !などの符号は語数に含めません。)

When I was a child, there were no convenience stores in my hometown. Now there are a lot of those stores in this city. They are very convenient, but do you think they have to be open late at night, too?



先生



フミさん

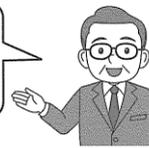
I want them to be open 24 hours. We can buy many kinds of things any time. Some people can go shopping only at night.



ユキノブさん

I don't think they should be open all night. I'm sure \*robberies happen more often after \*midnight. There are only a few people on the streets then.

Thank you for your opinions. Maybe there are more good and bad points. What do you think?



先生

〈注〉 robbery(robberies) 強盗      midnight 真夜中

〈条件〉

- ① 1文目にはフミさんとユキノブさんのどちらの立場に賛成かを書くこと。
- ② 賛成する理由を一つ挙げて、その理由を補足する事柄や具体例とともに書くこと。
- ③ 吹き出しの中の語句を使ってもかまわないが、フミさんとユキノブさんが述べていない内容を書くこと。
- ④ 語数は20語以上とする。

正解答(例) I agree with Fumi. When a dangerous thing happens, we can ask them for help. There is always someone in the store.